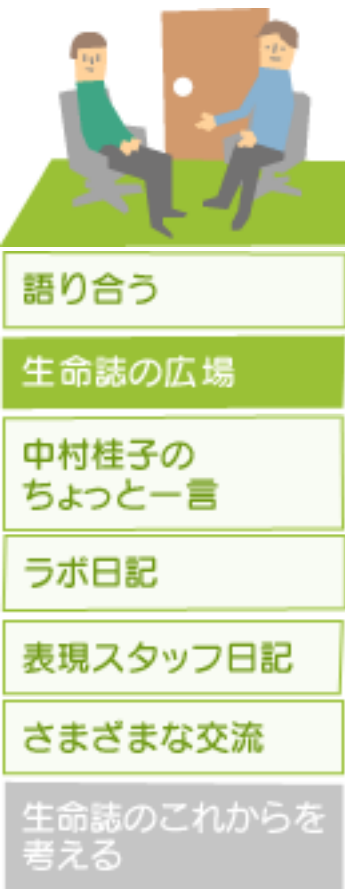




## 生命誌の広場



### テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」▶
- 研究について▶
- 季刊「生命誌」▶
- 展示・映像▶
- その他▶

あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

### 最新のお返事

- 2019年10月02日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日 [この夏一番元気だったものは？](#)

### 最新のご意見

- 2019年09月27日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日 [この夏一番元気だったものは？](#)

### 過去の書き込み

2019年 10月  
GO

### みなさんからのご意見

#### その他

#### ゲノム編集された「赤ちゃん」誕生について

投稿日：2018.11.30 ニックネーム：相模のラクダ

【中村館長様】  
数日前、中国の研究機関から、特定の「感染症」を防ぐために、人間の受精卵に「ゲノム編集処理を行ない」双子の赤ちゃんが誕生しました。・・と、発表し、世界の研究者、及び、人々に、「信じられない!？」という、世界に激震が走りました。信じられない案件です。ある研究者からは、「踏み込んではいけない神の領域」だとか、「医療技術の発展と、人間の倫理観は、トレードオフ」であるという意見も存在します。両論あると思いますが、各国研究機関や、政府の 大方の見方は 現状「反対」の意見が大半です。人類未来の医療技術発展に対して、この領域での、ご専門の 中村館長のご意見を 伺えれば幸いです。宜しくお願いいたします。

#### お返事

投稿日：2018.12.03 名前：中村桂子館長

「ゲノム編集処理による双子の赤ちゃん」の話、「なんと軽卒な」としか言いようがありません。さまざまな問題がありますが長くなりますので一点だけにします。これはまず「生れた赤ちゃん」が一人の人間（この場合二人ですね）であるということからすべては始まるというところから考えなければなりません。生れた赤ちゃんの人間としての存在を否定することは私たちにはできないのです。私たちにとって人間とはそのような存在です。ですから誕生に関する技術はそれだけの責任を持って考えなければならないのに、そんな気配はまったく感じられません。この場合は特別な人だと思えますが。今の科学や科学技術の流れが研究者に対してそのような強い抑制を求める雰囲気になっていないことが気になります。

#### 中村桂子の「ちょっと一言」

#### 葉っぱの紅葉 螻蛄の黄葉

投稿日：2018.11.29 ニックネーム：やっちゃん

山々の紅葉がきれいです。今年は風台風の影響でイチョウの黄葉がちょっと寂しい気がします。が、街路樹や山のもみじの錦はやはり目を楽しませてくれます。  
葉っぱは何故、紅（黄）葉するのか。この歳になって、初めて知りました。冬を前に木々がリスク回避しているのだそうです。葉緑素が減り、赤や黄色の色素が見えてきた。茶色はタンニンの色。植物の自然適応は素晴らしい。葉っぱの変化に合わせてか、螻蛄も体色を変えています。鮮やかな緑から黄緑へ、さらに枯葉色まで。どうやって？昆虫は自分の色を変えることができるのですか？不思議です。

#### お返事

投稿日：2018.12.03 名前：中村桂子館長

今年は猛暑や台風による塩害などで紅葉があまりきれいでないところも多いとは言え、この季節の山々の変化は楽しいですね。紅葉のメカニズムを知っ



10月19日生命誌オープンラボ (19.10.01)

10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会(19.10.01)

昆虫脳の標本展示が登場！(19.10.01)

パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始(19.10.01)

あくあびあ芥川とスタンプラリー開催(19.10.01)

てワクワクしていらっしゃる様子があり、次の謎もまた楽しんでいただきたいと思います。

## その他

### ふつうの女の子

投稿日：2018.11.28 ニックネーム：吉田今出川

初めまして。京都在住の主婦です。先生の視点論点を拝見し、大変感動いたしました。なんだかホッとしたのです。深刻な社会問題が次々に聞こえてくる中で、何も出来ない自分に苦しんでいました。小さな喜びを大切にすることを忘れていたのです。先生に本当に感謝申し上げます。

### お返事

投稿日：2018.11.28 名前：中村桂子館長

とってもとっても嬉しいメールです。「視点・論点」の時に紹介したあしながおじさんのジューディの「毎日つまらないできごとにはわらいながらあたっていくには、それこそ勇気がいると思いますわ」という言葉をいつも思い出しています。そこから生れる小さな喜びを大切に。お仲間ができて嬉しいです。

## その他

### 祝：2025年大阪万博決定！

投稿日：2018.11.25 ニックネーム：ラフランス

#### 【研究館皆様】

まずは、55年ぶり、2回目の「大阪万博決定」おめでとうございます！人生で、2回も、万博を見られる？のは、贅沢ですね。まだ、7年程先の話ですが、この、絶好のチャンスに、貴館 又は、JT様として何か特別な「企画」を構想してみてはどうでしょうか？！少し期待しています。

### お返事

投稿日：2018.11.30 名前：中村桂子館長

どうでしょう。私はイベントが苦手ということもあってなんだか万博気分になっていないというのが正直なところです。2025年という年の意味を考えてやって下さるといいなと願っています。

## 季刊「生命誌」

### 季刊生命誌WEBフォームより

投稿日：2018.11.13 ニックネーム：えびすさん

研究員の話しぶりが面白いとおもいます。

### お返事

投稿日：2018.11.13 名前：中村桂子館長

研究には人柄がそのまま出るものですね。研究をやっているのは個性をもつ一人一人の人間なのだという、あたりまえだけれど大事なことを考える機会を、私たちも楽しんでいます。

### お返事

投稿日：2018.12.05 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・齊藤

文字で著された記事を「話しぶり」と表現してくださってありがとうございます。目の前で本人が語りかけてくるかのような臨場感を汲み取っていただけているのだとしたら幸いです。科学者の人間性も含めて、科学を考えられたらと思っています。

## 季刊生命誌WEBフォームより

投稿日：2018.11.13 ニックネーム：ぐちき

世界的な研究者がどのような考え方で研究に取り組んでいるか興味があり、個人的な読み物として楽しんでいる。

## お返事

投稿日：2018.11.13 名前：中村桂子館長

私たちの考え方を的確に受け止め楽しんでくださっていること、ありがたく思います。

## お返事

投稿日：2018.12.05 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・齊藤

サイエンティスト・ライブラリーを始めとする季刊生命誌では、さまざまな分野の先生にお話を伺い、その人生を物語として表現したいと取り組んでいます。読み物として楽しんでくださっているという声、大変嬉しく思います。ありがとうございます！

## 季刊生命誌WEBフォームより

投稿日：2018.11.13 ニックネーム：ななみ

数多くの偉人の方の生い立ちや経歴を分かりやすく掲載されており、とても感銘を受けます。偉人の方の努力と成果、そこから発せられる言葉に、自身の日々の生活の励みにしています。学校の教科書にも、載せたい程であり、ぜひとも後世にも引き継いでいって頂きたいです。

## お返事

投稿日：2018.11.13 名前：中村桂子館長

研究の成果だけでなく、それが行われるプロセス、つまり研究者が何を考え、どんな苦勞をして成果につなげたかを伝えることは大切と思っています。これからもさまざまなエピソードを伝えていきますので応援をしてください。

## お返事

投稿日：2018.12.05 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・齊藤

力強いご感想、ありがとうございます。研究のご苦勞も悩みも人それぞれであるがゆえ、その道を振り返っての言葉にはその人にしかない重みがあり、人生はその人固有の物語になると実感します。それらをうまく感じ取って活力にいただいていると知り、とても嬉しいです。



## 中村桂子の「ちょっと一言」

## Re:生きものの「こころ」を考える

投稿日：2018.11.11 ニックネーム：ミッキー

コメントありがとうございます。1つの細胞が分裂を繰り返し分化して脳になる。「こころ」という言葉が持つ深い意味をよく考えながら学び続けたいと思います。よろしく願いいたします。

## お返事

投稿日：2018.11.12 名前：中村桂子館長

「こころ」はまだまだこれから勉強ですので、少しずつと思っています。





## 生きものの「ころ」を考える

投稿日：2018.11.09 ニックネーム：ミッキー

箇条書きのレベルですが、御一読いただければ幸いです。

1. 研究館のレクチャーで、ミツバチの小さな脳を見せてもらって驚きました。ヒトの脳と同じように左脳と右脳があり、しかも左右の脳で神経の連絡(未交差?)もあるそうです。ミツバチは8の字ダンスによる高度な情報伝達能力や学習記憶能力、高い社会性を持ちますが、ヒトの脳と相似性のある構造であることを知ると、ミツバチはヒトの「ころ」の原始的なものを持っているのではないかと感じます。この左脳右脳の構造がどれだけ多くの種で保存されているのか知りたいところです。何れにしても、脊索やそれ以前からヒトの脳に至る進化を基軸にした生きものの「ころ」の共通性と多様性を考えることは興味深いことです。

2. 昆虫などの小さな生きものは、脳が小さいのに対して触覚やヒゲなどの優れた感覚器を持っています。例えば、チョウの食草を見分ける味覚器、トンボは視覚依存で、アリは嗅覚依存だそうです。ということは、視聴触味嗅の五感を基にしてヒトの脳が創る「ころ」の世界に対して、感覚器優位の生きものが持つ「ころ」の世界は、ヒトにとっては異次元の世界だと思います。昆虫だけでなく、例えば、イヌは優れた嗅覚でどんな世界を見ているのでしょうか。さらに、最初に感覚機能を持った生物は単細胞生物ではないかと思えます。外界を感じて、外界と自分を区別することが“個の確立”になったのでは？

3. 生きものを見渡して感じることは、生きものは普遍的に“共存共生のころ”を持っていると思うことです。それは、たとえ食物連鎖のどの位置にしようともです。“共生”の例は自然界には枚挙にいとまがないと思えます。さらに、30億年以上遡って眺めると・・・酸素をエネルギーとする単細胞生物が、他の単細胞生物に食べられてその中でミトコンドリアとなって共生して動物細胞になったこと。さらに、そこに光をエネルギーとする単細胞生物が加わり葉緑体として共生するようになり植物細胞になったと考えられているそうです。“共存共生のころ”は単細胞のときから始まっていると思えます。加えて、ヒトの体は大腸菌や単細胞生物由来の多種の細胞の共生体だと気がつきます。

4. ヒラヒラとランタナの花の周りを飛び回るチョウはいかにも楽しげです。彼らは生きることが本当に“楽しい”のだなと感じます。

### ●ジルさんについて

中村館長のグリア細胞に関するご講演の冒頭でジル・テイラーさんの名前が出てきて驚きました。数年前のNHKのTEDという番組で彼女のプレゼンを見て感動していたからです。脳科学者の彼女が左脳に脳卒中を起こした時、彼女の右脳がもたらせた不思議な世界についての体験談でした。彼女は最後に「いつでも好きな時に右脳の世界に入れたらいいのに」とおっしゃっていました。うまく説明できないのですが、私は彼女の右脳の世界は前出のチョウの「ころ」に通じるものがあると感じています。

## お返事

投稿日：2018.11.09 名前：中村桂子館長

ありがとうございます。意識、精神などというと難しいですが「ころ」は恐らく、小さな生きものところから始まっているのかなと思えます。これから考えなければなりません。



## 季刊「生命誌」

### 季刊生命誌WEBフォームより

投稿日：2018.11.08 ニックネーム：orange

めずらしいタイプの、自己免疫疾患で苦しんでいます。新聞の記事で知り講演を聴かせていただきました。私のような人間が居なくなるよう、研究を続けてください。

## お返事

投稿日：2018.11.08 名前：中村桂子館長

免疫は生きていくことの複雑さを教えてくれる現象であり、研究はこれからも続けていかれると思います。生命現象の本質を理解して、それを病気の理解、更には治療につなげていくことは大切ですね。研究館は直接ヒトの研究はしませんが、基本を考えることは続けていきます。

## お返事

投稿日：2018.12.05 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・齊藤

声をお寄せいただきありがとうございます。当館の研究はヒト以外の生きものの基礎研究が中心ですが、取材では免疫学を含めさまざまな分野の方にお話を伺い、生きものであり自然の一部としての人の全体像を考えたいと思います。よろしければ、またお考えになったことをお聞かせください。



## 中村桂子の「ちょっと一言」

### 生き物としてのこころ

投稿日：2018.11.07 ニックネーム：アリス

「こころ」「わたし」というものはどのように形成されるのだろう、ということに若い頃から興味がありました。つい先日も40年程前に出版されたボロボロになった精神分析の本を読み返したところです。学問としての心理学は「からだ」をあまり意識せず、医学は「こころ」をあまり意識せずに進んできたように思います。けれど臨床で扱うのはまるごとの人間です。中村先生のおっしゃるように「こころ」の生命誌が必要だと思います。生きていく不思議を実感しつつ日々の生活を送ることで、愚かな争いをしない「こころ」につながるのではないかと考えています。

## お返事

投稿日：2018.11.07 名前：中村桂子館長

私は難しいことを考えるのが苦手な中でどうしてもとまらない限り、そこから逃げているという、言ってみれば怠け者です。「こころ」も、ふだんの生活の中で大切にしなければならないのはあたりまえですから、それは心がけています（まさに「こころ」ですね）。でも正面から考えるのは・・・でもきちんと考えなければいけないという気持ちになってきました。このままではいけないと思えて。ポチポチ勉強ということですので、いろいろお教え下さい。



## 中村桂子の「ちょっと一言」

### 生命誌と「こころ」について

投稿日：2018.11.05 名前：長谷川源治

日本経済新聞2006年9月29日（夕刊）記事の「人間発見」の中で中村館長の記事を読んで21世紀は生命科学の時代を強く感じました。2006年8月16日山中教授の万能細胞の発表は衝撃的でした。この時点で「こころ」もIPSで変えられるのか興味が続いています。中村館長の生命誌の世界とちょっと一言は胸に打たれ日常生活が楽しいです。IPSと生命誌を学んでいく過程で京大の「こころの未来センター」と出会いました。世界でも研究機関としては京大だけだそうです。設立から10年を経て、吉川センター長から送られてくる学術広報誌「こころの未来」は生命誌と重ね合わせて興味湧いてきます。15号の中で山極大学総長の「私はゴリラのこころが身体とぴったり結びついていることがわかった。」とありました。私は近所で飼っているオウムと結びついているなと感じています。蟻や蝶、カエルなど小さい生き物でも人と結びついていると思います。京大ではこころを脳神経から研究するMRIを利用して成果を得ています。京大のこころの未来センターではこころとからだ、こころといきかた、こころときすなの3つの領域で幅広く研究を推進しており生命誌研究館と連携でこころ学を創生できれば権力や金力に振り回されなくなるのではないかと考えています。

## お返事

投稿日：2018.11.06 名前：中村桂子館長

京大の「こころの未来センター」はとてもよいお仕事をしていますね。私もこれから「こころ」を少しずつ学んでいく中でセンターの方たちに教えていただきたいと思っています。ゆっくり、ゆったりとやっていこう

かなと。

## その他

### Re: 芥川(スタンプラリー)

投稿日：2018.11.04 ニックネーム：ミッキー

桜もあるんですね。楽しみがもう一つ増えました。ありがとうございます。芥川は堤も河川敷もきれいに整備されていて、水と生きものを大切にする雰囲気があふれていました。

## お返事

投稿日：2018.11.06 名前：中村桂子館長

さまざまな時、さまざまな場所で「生命誌」を感じていただけるとありがたいです。

## その他

### 芥川 (スタンプラリー)

投稿日：2018.11.02 ニックネーム：ミッキー

研究館の裏手に、芥川というきれいな川が流れていることを最近知りました。上流は大阪府下では景勝で有名な摂津溪谷になっています。その中間あたりにあくあびあ(高槻市立自然博物館)があります。そことスタンプラリーをやっているよと研究館の方に教えてもらいました。思い立って出かけた初日はなんと休館日！で、摂津峡へ足を伸ばしました。後日再挑戦し、結局摂津峡には2度行きました。

摂津峡はゴツゴツした大岩の間を流れる急流が清々しく、紅葉間近の山の斜面に当たる明るい日差しは、お弁当を食べている30の間にもどんどん変化するのがわかりました。台風の被害であちこちで大きな木が倒れていて、コースは途中で倒木のために行き止まりになっていましたが、そういうことも全部含めて自然の厳しさや優しさの中に自分が含まれていると感じました。

川を下って、あくあびあでは芥川で棲息する小魚や水鳥、カエルやカメ、ヘビなど多種多様な生きものの飼育展示や、ポスター展示をしていました。忙しく動き回るもの、草や小石の陰にひっそりと身を隠すものなどを1時間ほど眺めた後で堤を歩き始めると、なんとなく水中に暮らす生きもの達の姿が見えてくるような気持ちになりました。川沿いの、のどかな田園風景を楽しみ、穏やかな気分を味わいながら研究館の近くまで土手を歩いて帰ってきました。

研究館が、こんなに豊かな自然とすぐ近くでつながっていることを知って、なんとなく嬉しくなりました。新緑や紅葉の季節にまた行きたいと思っています。

追伸

テーマ：生きものの「こころ」を考える。とても難しそう。でも、面白そう。

## お返事

投稿日：2018.11.02 名前：中村桂子館長

楽しい時間を過ごされたことがわかりこちらまで楽しくなりました。摂津峡は桜、新緑、紅葉などいつも自然を楽しめる場所です。暮らしの近くに魅力的な自然があるのは日本の特徴の一つですね。BRHもこれを十分に生かしていきたいと思っています。

▲ ページの先頭へ